



**Tohoku Univ.**  
Dept. Hematology  
and Rheumatology

# 血液免疫科 ニュースレター

Vol. 28  
(2019年5月)

【発行元】 東北大学 血液・免疫病学分野 (東北大学病院 血液免疫科)  
Address: 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497  
Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

## 巻頭言

桜の開花とともに新年度が始まりました。新たな環境で仕事をはじめられた先生方もいらっしゃると思います。いつもながら変化のない年はなく、今年度もいろいろなことがありそうです。

私をめぐる最も大きな変化は、腎高内、検査部を兼担することになったことでしょうか。前号で紹介申し上げたように、伊藤先生のご退職に伴いしばらくの間、腎高内と血免を一つの分野として私が担当することになります。もともとはともに第二内科から派生した分野ですが、その特徴は血液・リウマチ膠原病・腎臓・内分泌といった複数のサブスペシャルティーの集合体であることです。集合体として考えると総合的で大きなアドバンテージがあるのですが、それぞれのサブスペシャルティーとしては消化器、循環器のような大きなサブスペシャルティーではありません。まずは、旧第二内科のそれぞれのサブスペシャルティーが大きな集合体として集まり、その後どのように講座を構成することが東北大学の内科学講座として最適なのか、考えていきたいと思っています。現在はいわば分野再編までの発展的な準備期間・のりづけ期間ですが、

腎高内と血免のアクティビティーを落とすことなく、教室を運営していかなければなりません。また、将来的な分野再編後も集合体のメリットを生かすべく、のりづけをはがすことなく緩やかな共同体は保っていきたいと考えています。

もちろん、これは医学系研究科としての分野再編であり、診療科としてはそれぞれのサブスペシャルティーが確立していますので、病院においては血液内科・リウマチ膠原病内科・腎臓高血圧内分泌内科としてその独自性を発揮してもらいたいと思っています。それぞれのサブスペシャルティーにすでに親和性がある医学生・研修医についてはそれぞれの魅力をアピールし、一方で、複数のサブスペシャルティーを勉強したいという研修医・医学生には融合のメリットをアピールすることで、多くの若手をリクルートしていきたいと思っています。

検査部についても、病院のインフラとしてきちんとした体制を確保するとともに、新専門医制度の一つの基本領域として臨床・研究を進めていく必要があると考えています。大学に戻ってから6年近くを過ごしたいわば私の第二の古巣であり、新た

## 今号の内容

巻頭言	p1
新人紹介	p2
学会報告	p3-5
人事異動	p6

に副部長となった藤原亨先生とともにその発展に向け尽力していきたいと思っています。

このように書くと大学では大きな変化が起きているように感じられる先生方もいらっしゃるかもしれませんが、血液免疫科の日々の診療・研究・教育はこれまでと全く変わりません。すべきことは血液疾患・リウマチ膠原病疾患に向き合うことであり、これらの強敵と戦う仲間をできるだけ多く迎え入れることです。幸い今年度も優秀な若手が入局してくれました。本当に心強い限りです。OBの先生方におかれましても、引き続きよろしくご支援の程、お願い申し上げます。(張替 秀郎)



## 新人紹介

### 李 尹河 先生

初めまして、あるいは、お久しぶりです。4月より血液免疫科に入局いたしました、李尹河と申します。これまで高校大学と仙台で過ごし、医師となつてからは大崎市民病院で3年間の研修をしたのち、直近の2年ほどは名古屋の第一赤十字病院で勤めておりました。今まで余所へ行ったり来たりしながらも、おおよそ20年近くも宮城に住んでいたためでしょうか。故郷としての強い愛着をこの土地に持っていたようで、先日お話しした患者さんが濁点の多い日本語を喋っているのを耳にして、なるほどまた帰ってきたのだなとひどく感慨深いものを感じました。血液という分野の臨床的な面白さは、ひとつに極めて致死性の高い疾患を多く扱いながらも半分は疾病

を克服できること、また、その手段として切るという方法をほとんど採れないかわりに移植というカードが使えることにあるのだろうと思います。先生方にご助力いただきつつ、少しでもこの半分というラインを押し上げられるよう精一杯精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



### 田中 悠也 先生

はじめまして。本年度より東北大学血液免疫科に入局させていただきました田中悠也と申します。平成29年に山形大学を卒業し、大崎市民病院で2年間の初期研修を行いました。学生時代より血液内科の分野に興味を抱きましたが、市中病院で血液内科の先生方の熱意のあるご指導を賜ることでより一層にこの分野での貢献をできるようになりたいと考えて将来の進路を選択しました。この春からは移植症例を多く経験し、日々の仕事の難解さや慣れない業務に苦慮しておりますが、同時に新たな発見も多く血液内科の

「おもしろさ」を改めて実感しています。新元号「令和」が幕開けとなりましたが、時代が変わったとしても初心を忘れずに日々の診療に取り組んでいきたいと思っています。これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



## 学会報告① ～日本リウマチ学会総会～

4月15日から17日に国立京都国際会館にて開催された第63回日本リウマチ学会総会にて、当科からはシンポジウム1題、口演3題、の演題発表を行いました。

4月15日

○ 白井 剛志 先生

W20-6 生物学的製剤を使用した大型血管炎患者の検討

4月16日

○ 石井 智徳 先生

S6-2 関節リウマチに対するJAK阻害薬を用いた臨床試験の特徴

4月17日

○ 佐藤 紘子 先生

W72-5 血管ベーチェット病の臨床的特徴と治療内容の検討

○ 武藤 智之 先生

ICW20-4 Endothelial protein C receptor and scavenger receptor class B type 1 are major autoantigens in Takayasu arteritis

JCR 2019 ICW Excellent Abstract Awardに選出

最近では膠原病領域でもガイドラインや手引きの作成が進んでおり、本学会でもSLEや間質性肺炎について紹介がなされ、臨床内容をupdateするとともに、当科からも有意義な発表を行うことができました。（白井 剛志）





## 学会報告② ～第63回日本造血細胞移植学会総会・学術集会～

3月7日～9日にかけて大阪市の大阪国際会議場にて日本造血細胞移植学会総会が開催されました。発表演題は以下の通りです。

○ 大西 康 先生

037-1 「成人発症の慢性活動性EBV感染症に対する臍帯血移植の成績」

○ 川尻 昭寿 先生

OS27-4 「Matching of HLA haplotype in unrelated single HLA allele mismatch bone marrow transplantation」

○ 中川 諒 先生

06-3 「臍帯血移植後に肺真菌症に対する外科的切除が有効であった急性骨髄性白血病3例」

○ 小野寺 晃一 先生

P33-6 「再生不良性貧血に対する同種造血幹細胞移植後にドナー型二次性生着不全からAMLへと進展した一例」

その他、病棟でいつもお世話になっている心理士の長谷川涼子さんが、「AYA世代造血幹細胞移植 患者・家族への心理支援」と題してシンポジストとして多数の聴衆を前にご講演された他、ランチオンセミナーで福原規子先生が「マントル細胞リンパ腫治療におけるイブルチニブの役割」についてご発表されました。さらには、大西 康先生が造血細胞移植認定医のための教育セミナーをご担当され、張替 秀郎先生は複数の著名な演者の方々のご発表の座長を務められ、東北の造血細胞移植推進拠点病院として東北大が重要な役割を担っていることを実感することができました。金曜日の夜には、病棟の看護師さんや張替先生、長谷川さん、移植コーディネーターの秋澤さんや石川さんなどと、山形市立病院済生館の木村先生のチョイスしたおしゃれな佇まいのお店で東北大の会合が開かれました。残念ながら木村先生はご参加されなかったのですが、東北から遠く離れた大阪の地でもセンスの光るお店の選択に驚かされました。

来年は虎の門病院の谷口修一先生を会長として東京で第42回総会が開催されます。より一層、臨床的に意義のあるような発表を東北大学から発信できるように努力していきたいと思います。（小野寺 晃一）



## 学会報告③ ～日本内科学会ことはじめ2019～

本年も日本内科学会総会と同時開催の「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」において、当科実習の医学部6年生が演題を発表しました。本年は過去最多の6名の発表となりました。発表演題は以下の通りです。

- 渡邊 樹也 君（指導医；小野寺先生）  
「腫瘍を形成し悪性リンパ腫との鑑別を要したIgG4関連肥厚性硬膜炎の一例」
- 高橋 彩理 さん（指導医；大西先生）  
「関節リウマチを合併した慢性骨髄性白血病に対してダサチニブ治療後に無治療寛解を達成した一例」
- 竹中 健太 君（指導医；齋藤先生）  
「傍腫瘍性神経症候群を契機に診断されたホジキンリンパ腫の3例」
- 穴戸 愛 さん（指導医；福原先生）  
「全身性AAアミロイドーシスを伴って発症したホジキンリンパ腫の一例」
- 片倉 世雄 君（指導医；白井先生）  
「腸結核と鑑別を要した自己免疫性蛋白漏出性胃腸症の一例」 【優秀演題賞受賞】
- 勝田 義久 君（指導医；藤井先生）  
「脊椎関節炎に伴うAAアミロイドーシスに対してトシリズマブで治療した一例」

各人とも数ヶ月前から準備を進め、当日は堂々とした素晴らしい発表でした。本人たちは緊張していたようですが、それを感じさせずに質疑応答もこなすなど、毎年のことながら高いポテンシャルを遺憾なく発揮してくれていました。世間が沸き返る10連休の初日に行われた会でありましたが、その喧噪に負けないくらい熱のこもった会場では医学生・研修医向けとは思えないほどハイレベルの発表や議論が行われており、その中で活躍する姿は非常に頼もしく映りました。この経験が彼らの今後の糧となり、また専門分野選択のきっかけとなることを願ってやみません。（齋藤 慧）





## 人事異動

この春の当科および関連病院の主な人事異動をご報告させていただきます。

### 【転出】

星 陽介 先生 (血液免疫科 医員 → 東北大学病院 救急部<出向>)

古川 瑛次郎 先生 (血液免疫科 医員(後期研修) → 石巻赤十字病院 血液内科)

### 【転入】

永井 泰地 先生 (大崎市民病院 リウマチ科 → 血液免疫科 医員)

李 尹河 先生 (名古屋第一赤十字病院 血液内科 → 血液免疫科 医員)

### 【内部】

武藤 智之 先生 (大学院生 → 血液免疫科 医員)

川尻 昭寿 先生 (血液免疫科 医員 → 大学院生)

矢坂 健 先生 (血液免疫科 医員 → 大学院生)

中川 諒 先生 (血液免疫科 医員 → 大学院生)

### 【外部】

氷室 真仁 先生 (仙台市立病院 血液内科 → 山形大学 内科学第三)

猪倉 恭子 先生 (山形大学 内科学第三 → 仙台市立病院 血液内科)

八田 俊介 先生 (国立がん研究センター中央病院 → 国立病院機構仙台医療センター 血液内科)

渡部 龍 先生 (米国留学 → 大崎市民病院 リウマチ科)

### 【入局】

田中 悠也 先生 (大崎市民病院 後期研修医 → 血液免疫科 医員)

松林 明日香 さん (事務補佐員)

